

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 ふきのとう	代表者	新庄 祐士	法人・事業所の 特徴	小規模多機能型施設としての柔軟な対応を心がけ、ご利用者それぞれの暮らしを支援することに努めます。また、ぬくもりと笑顔あふれる施設づくりを方針にサービスを提供しています。
事業所名	中筋 小規模多機能型居宅介護施設 丹都	管理者	野々垣 達哉		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	0人	3人	1人	1人	1人	0人	1人	0人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組・結果	意見	今回の改善計画
A.事業所自己評価の確認	毎月の会議にて改善計画の進捗状況の確認と評価を行い実践へと繋げる。各職員の運営に関する情報共有を図り、自己評価スキルを高める。	ご利用者のプレゼン、記録の電子化、自己啓発など比較的多くの成果を残すことができた。その反面、記録の電子化によるデメリットや、成果を踏まえての改善面も明確になった。	運営状況を確認する限り多くのことができているように感じるが、控えめな評価をされているように感じる。記録の電子化による課題を今後改善していく必要があります。	毎月の会議にて改善計画の進捗状況の確認と評価を行い実践へと繋げる。内部委員会を中心に業務改善を図る。
B.事業所のしつらえ・環境	ご利用者や来客者、職員にとって快適かつクリーンな環境を整備し、居心地の良い空間を提供する。	コロナウイルスが5類に移行したが、できる範囲の感染対策や、環境整備を継続し、より安全で安心な空間を提供できるよう取り組めた。	環境整備が行きとどいており、きれいな環境です。ご利用者の方々を見ても居心地がよさそうに過ごされている。	ご利用者や来客者、職員にとって快適かつクリーンな環境を整備し、居心地の良い空間を提供する。
C.事業所と地域のかかわり	地域・家族広報・SNSを通じて事業所のPRを行う。また、接遇研修(挨拶・電話対応等)を実施する。	家族広報4回、SNSについては随時更新することができた。地域広報については1回のみとなった。地域に向けた新たなPR方法を模索していくことも必要。	地域とのつながりを大切に運営されていることが、毎月の取り組みの中で見て取れます。しかし、丹都のことを知らないという方もあり、PRの仕方も工夫すればどうかと感じます。	地域・家族広報・SNSを通じて事業所PRを行う。また、地域関係機関等へのPRを行い認知度向上を図る。
D.地域に出向いて本人の暮らしを支える取組	ご利用者が住み慣れた地域生活を継続できるよう、生活状況を把握し、各関係機関や家族との関係性を強化し、在宅支援へと繋げる。	ご利用者のプレゼンにより、ご利用者やご家族の事、これまでの暮らしについても深めることができた。その上で今後どのように支援していくかを掘り下げる必要がある。	地域行事への参加や外食等、地域の中での支援をされている。各関係機関とも連携されていると報告を聞いている。	ご利用者が住み慣れた地域での生活を継続できるよう、生活状況を把握し各関係機関や家族との関係性を保ち在宅支援を継続する。
E.運営推進会議を活かした取組	サービス状況や運営状況をより詳しく報告する。また、丹都での困難事例や、地域での事例を報告相談できるケースについては委員会の場で協議する。	毎月の取り組み状況として、写真での報告や、研修資料の添付などより詳しく状況を報告できた。事例検討等はケースがなく相談はなかった。今後更なる報告できる事項を検討。	毎月の取り組み状況は、写真などもありご利用者の様子などもくみ取ることができる。アクシデント報告等もあってもいいかと感じる。	サービス状況や運営状況をより詳しく報告する。また、丹都での困難事例や、地域での事例を報告相談できるケースについては委員会の場で協議する。
F.事業所の防災・災害対策	様々な状況を想定した訓練を実施し、運営推進委員の方々に防災訓練への参加機会を設ける。	委員の皆さんに避難訓練を見学していただくことができた。また、自治会との合同防災訓練も実施できた。	地域からも頼りにされている組織であることが伺える。避難訓練も様々な想定で実施されている。	様々な状況(火災・水害・地震等)を想定した訓練を実施し、必要となる物品等の確認を行う。